別府史談会企画研究レポート

『別府を通る古い道』

企画研究担当　恒松　栖

別府のむらむらを通り抜けて行く古い道は、中津・宇佐から鹿鳴越峠を越え頭成・小浦を通り、小坂・内竈を経て里屋にはいる。さらに、国宝の鬼の岩屋付近を南に下って春木川を越え実相寺山の東麓の吉弘神杜を抜け境川をわたる。そして、野口原の日暮庵を通り旧野口道路を東南に下って西方寺前を通り流川に達する。そこから永石通りをまたぎ、さらに朝見川を経て浜脇、赤松峠、銭瓶峠、府内へとつながる豊前街道が最も重要な古い道である。

また、別府の村から鶴見、板地、生目神杜、堀田を経て旗の台、鳥居峠さらに由布院盆地を経て九重、玖珠のむらむらを通り日田、太宰府へとつながる筑紫街道がある。もう一つは、別府から鶴見、馬場を経て火売神杜、明響、ハイノキ峠、湯山、十文字原を通り安心院、宇佐を経て豊前街道につながる宇佐街道などがあると考えられている。

これらの別府のむらむらを通る古い道はそれぞれに新しい道が開かれたり道筋が全く異なってしまったものもあり、街道筋にあった貴重な史跡・名跡が姿を消してしまったものも少なくない。

このような姿から、古い道筋に転々と残されている様々なものを、少しでも早く保存したり知らしめたりすることが大事ではないかと言う声が多く聞かれるようになった。これを機会に別府史談会発足二十周年記念事業として『別府を通る古い道』の共同研究を進めることとなった。

研究調査の成果を次世代への地宝として、二～三年後に冊子としてまとめ残すことにし、研究をスタートさせたところである。完成物としては、A5版一〇〇～一二〇ページ程度、オールカラー、誰にも親しみやすく、ハイキングのお供にできるものと言ったコンセプトでまとめ上げることを目指している。

会員各位の資料提供をお願いするとともに、多くの会員の方々の分担執筆をお願いし充実したものとなるよう準備しているところである。万難を排してご協力をお願いするしだいである。